

令和7年度 東郷町立高嶺小学校 第1回学校運営協議会 議事録

日時：令和7年6月26日（木）

14時00分から15時30分まで

場所：東郷町立高嶺小学校 校長室

1 開会の言葉（進行：教頭）

高嶺小学校教頭：加藤先生より開会の言葉

2 校長あいさつ

高嶺小学校校長：西山先生よりあいさつ

3 コミュニティ・スクールの概要

事務局からコミュニティ・スクールの概要について説明

4 自己紹介

谷直衛、山下健一、高木元博、田島和義、伊藤悟克、奥谷善一、佐竹由三、森島知世、山田剛、西山淳（校長）、加藤義隆（教頭）
（欠席：近藤嘉樹、横澤康行）

5 議事

(1) 会長の選出について（教頭）

委員の互選により、谷直衛委員を会長に選出
→参加者全員が承認

(2) 副会長の選出について

谷直衛会長の指名により、山下健一委員を副会長に選出
→参加者全員が承認

(3) 地域学校協働活動推進委員（コーディネーター）の承認について

横澤康行委員、山田剛委員をコーディネーターに選出
→参加者全員が承認

(4) 令和7年度の学校運営方針承認について

・学校経営計画について

（校長）今年度の児童数は現在472名で、通常学級が各学年3クラス、支援学級（しらとり）が6クラスある。また、全校児童の約5%が外

国にルーツを持つ児童である。教員は62名である。

経営方針としては、教職員が組織で動くという意識をもって学校づくりに参加し、創造的で活気のある教育活動を推進する。教職員の互助・協働体制（互いに助け、協力して働くこと）のもと、児童の心に寄り添った指導を徹底していく。

重点努力目標として、挨拶の習慣化を図っていく。児童の中で挨拶のできる子とできない子の差が激しく、児童会の挨拶運動や教職員による励ましの声掛けを通して、校内だけでなく地域の方にも気持ちの良い挨拶ができる子どもを育成していく。

・教育課程編成に関する件について

（校長）教育目標は校訓「たくましく・かしこく・ゆたかに」を基調とし、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図る。

【学校運営方針に対する質疑応答】

Q1. 不登校対策はどのようにしているのか。

A1. いじめ不登校虐待対策委員会設置し、全職員で協議する。

Q2. 昨年度と比較して見直したところはあるか。

A2. 「組織で働く」及び「互助・協働体制」、学校運営協議会に関する部分について、学校評価での意見を反映させた。

Q3. 教員による不祥事がニュースになっていたが、高嶺小学校内での教員への指導はどうしているか。

A3. 朝の打ち合わせで注意喚起を行い、教員としてあるべき姿の再確認を行った。

Q4. 昔は遊びながら明るく登下校する子どもが多かったが、今は下を向いて登校する子どもが増えた。楽しいほうが良いのではと思う。

A4. 学校としては、昨今、近隣住民からの苦情も多いことから、登下校中のマナー指導を行い、地域の方の迷惑にならないようにしたいと思っている。

(5) 高嶺小学校地域とかかわる事業（授業）の計画及び課題について

【おやじの会】

（山田剛委員）高嶺小学校独自の取り組みである「おやじの会」とは、

先生（学校）と保護者・子どもの間に立ち、子どものためにできることをする組織である。また、子どもから意見・要望を募れる「おやじポスト」を昨年度から学校に設置し、子どもがしてほしいことを行えるようにしている。本年度は、児童の委員会で直接子どもの意見や要望を聞くということを検討している。

【外国籍の児童及び地域住民との関係】

（委員）全校児童の約5％が外国にルーツを持っている中で、言語面のサポートはどのようにしているか。

（校長）日本語が話せない児童に関してはポケトーク（翻訳機）を使用している。また、学校内の日本語教室で日本語を学んでいる。

（委員）子ども以上に外国籍の保護者や地域の方が、日本のルールを知らないことが多い。外国と日本の環境は大きく違うという背景を理解し、外国籍の大人に日本のルールをどう伝えていくか検討していくべきである。

(6) 令和7年度 学校運営協議会予定について

（事務局）会議は年3回を予定している。2回目は令和7年12月4日(木)で、3回目は令和8年2月5日(木)の、いずれも13時30分開始である。必要に応じて臨時会議の開催も検討中である。